

# 近畿大学貴重資料デジタルアーカイブについて

中央図書館事務部 レファレンス課 松屋 あき

## 1. はじめに

中央図書館では、図書館の役割としての文化遺産の継承という立場から、各学問分野の古典・名著などの収集を行っており、現在、貴重書・準貴重書・コレクションを合わせ、約5,000冊を所蔵しています。その中には、インキュナブラと呼ばれる15世紀後半の印刷物23点をはじめ、デカルト、ルソー、マルクスなどの初版本等の世界でも稀少な資料が数多くあります。

これらの資料は保存の観点から、24時間温度管理され、紫外線カットの室内照明を使用した貴重書室に配架されています。しかしながら、十分な管理下にあっても経年による資料の劣化は避けられません。また、事前申請による閲覧が可能ですが、現物を利用することによる破損の恐れもあります。貴重な資料を後世につなぎ、また、広く有効活用してもらえよう、2018年5月「近畿大学貴重資料デジタルアーカイブ」(<https://kda.clib.kindai.ac.jp/rarematerials>)を公開することとなりました。

## 2. システムの構築と資料のデジタル化について

システムの構築にあたっては、取り扱うメタデータの表示の仕方や優先的に使用するメタデータ項目等の調整及び取り決めに時間をかけ、閲覧者にわかりやすく表示できるよう努めました。

これまでも、ホームページ上で『エジプト誌』や「西洋古版日本関係地図集成」コレクションの画像を公開していましたが、アーカイブシステムを導入することで、検索機能など閲覧における利便性が向上、高精細なビュー

アにより、資料を拡大表示することが可能となりました。また、アーカイブシステムでは、直感的に貴重資料を検索することができるよう、年代の範囲を指定して資料の検索ができるタイムライン検索機能を提供しています。さらに、国際的なデジタルアーカイブの画像共有規格であるIIIF(トリプルアイエフ:International Image Interoperability Framework)に対応したことで、他のデジタルアーカイブとの画像共有を実現しました。

貴重資料のデジタル化は、業者に依頼し、専門のデジタルカメラを用いて行いました。デジタルデータは、画質の劣化のないTIFFファイルを保存用に、複数の解像度のJPEGファイルをインターネット公開用等に作成しています。今後、デジタル化を進めていくにあたり、資料の状態が良好なコレクションに関しては、ブックスキャナー等での撮影も検討しています。

## 3. 公開資料について

開始時には、既にデジタル化していた資料も含め、約400点の資料を公開することができました。その中から、主なコレクション、貴重書を紹介します。

### ・キストナーコレクション

第2次世界大戦当時、ドイツ古書籍業者の指導的立場としてニュルンベルクで活躍した古書籍商エルヴィン・キストナー(Erwin Kistner, 1896-1978)によるコレクションです。1700年代から1900年代初頭にかけてドイツ語圏で刊行された文学書、思想書の収集であり、レッシング、ゲーテ、シラーに代表される古典主

義、啓蒙主義、ロマン主義文学の一大宝庫であるとともに、現在ではドイツ本国でさえも所蔵が稀とされる作家の作品や大衆文学作品を広範に網羅しています。

※コレクションの一部をマイクロ化していたものをデジタル化し公開

・シェーデル『ニュルンベルク年代記』

ニュルンベルク 1493年

インクナブラと呼ばれる15世紀後半に作られた最初期の印刷物のなかでも、多数の細密な挿絵で有名な貴重資料です。ニュルンベルクの人文学者ハルトマン・シェーデルが、聖書をもとにして世界の歴史や地理に関することを年代順に記述した大冊で、1493年にニュルンベルク最大の印刷業者アントン・コーベルガーの工房で印刷出版されました。

・『帝鑑図説』 豊臣秀頼版 明 張居正・呂調陽奉勅撰 慶長11(1606)年

慶長11年(1606年)に豊臣秀頼が出版した秀頼版と称される古活字版です。中国古代から宋代までの歴代諸帝について

の善悪の政績を引き、これに解説と挿絵を加えた帝王教育の書で、全冊に豊富な挿絵を伴うことで珍重されています。本学では、巻末に臨済宗の僧・西笑承兌さいしやうじやうたいの跋文と呼ばれるあとがきがある有跋本と、跋文を除いた無跋本の両方を所蔵しています。

4. 今後について

アーカイブシステムの公開により、場所や時間が限定されることなく、貴重資料の閲覧が可能となりました。貴重資料の現物を閲覧していただく機会として、年に一度テーマを決めて貴重書展を開催しており、今年度からは、アーカイブシステムと連動して開催できるように準備を進めています。デジタルデータと現物、どちらも学習や研究に活用してもらえるよう工夫して管理運用に努めてまいります。

システムに公開できているコンテンツは、所蔵資料の一部ですので、今後も貴重資料のデジタル化を進め、希少性の高いものや利用頻度の高いものから順次公開していく予定です。

